

今回の「全国アートNPOフォーラムin熱海」では、コロナ禍以降のアートツーリズムについて考えてみよう企画しました。アーツカウンシルしずおかの「マイクロ・アート・ワーケーション」をはじめとした先進的な試みや全国のアート関係者たちの現場の声を聞き、アートが果たす地域での役割や観光との関わりについて、対話します。また、オンラインでのイベント開催も充実してきた一方で、直接その地へ赴き、顔を見て話をすることの大切さや貴重さも改めて感じます。このイベントもハイブリッド開催を予定していますが、こうした環境でのアートの可能性についてもみんなで考えましょう。

プログラム

2月26日(土)

13:00 挨拶 ▶ 13:15 全国各地のアートプロジェクト事例発表！ ▶ 14:45 休憩 ▶
▶ 15:00 アーツカウンシルしずおかの活動発表 ▶ 15:30 静岡県内のアートプロジェクト事例発表！
▶ 16:10 休憩 ▶ 16:20 交流会 ▶ 17:30 終了

2月27日(日)

10:00 まちあるき「熱海のアートをめぐる」 まちあるきの様子も、オンラインでご覧いただけます。
13:00 車座ミーティング「ネットワークの可能性」



アートマネージャー・ラボ(東京)

アートマネージャー・ラボとは、アート分野の未来をよりよいものにするため、アクションするアートマネージャーが中心となって活動する任意団体です。私たちは、アートマネージャーを「多様な文化芸術活動を支え、新しい表現行為を引き出す存在」と捉え、アート関係者の互助ネットワーク作りを行っています。あいまさを許容する感性と戦略的思考を併せ持つアートマネージャーが、自身のスキルを活かし、アートに関わる誰もが心豊かで幸せな生活を送ることができる開かれた「アートのエコシステム」の構築を目指します。(撮影:越間有紀子)



相澤久美(全国)

建築設計、編集、映像製作、災害支援、ロングディスタンストレイルの管理運営、コンサルティングなどに取り組んでいる。共通するのは、みんなでひとつの「もの・こと」を作り上げる活動のプロデュース。命をつなぐ、生きる力をつける、愛でる、をモットーに、右手に志、左手に算盤を持ち、世界平和を願ってやまない二児の母。NPO法人みちのくトレイルクラブ常務理事|一社|サイレントヴォイス副代表|NPO法人震災リゲイン代表理事|一社|トレイルブレイズハイキング研究所理事|一社|RQ災害教育センター理事など。2021年から青森大学客員教授。



安岐理加(香川)

美術家、てしまのまど主宰 情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修了 2010年東京神保町において共同で「路地と人」を立ち上げ、以後2013年まで運営に携わる。2012年より拠点を瀬戸内の豊島に移し「てしまのまど」を設立。カフェを運営しながら生活者としての記録と表現活動に取り組む。2019年情報科学芸術大学院大学(IAMAS)に在学、翌2020年3月修了。道具に残された人の暮らしを背景の社会状況と共にリサーチを重ね、現代社会との繋がりとともに解釈し、ナラティブな手法を使って視覚化する作品を制作している。現在、高松の港街である北浜町にシェアスペースを準備している。



朝倉由希(福井)

福井の一乗谷にある寺院に生まれる。大学で京都、就職で東京へ。25歳の時、再度大学に入り、アートマネジメント、文化政策を学ぶ。2012年、福井にUターン。アサヒ・アート・プロジェクトに2013年度〜2016年度まで参加。福井県内の文化振興事業に携わりながら、関係者のネットワーク構築や情報プラットフォーム形成を推進。2017年度より文化庁地域文化創生本部(京都)研究官。福井に軸足を置きながら県外を飛び回っていたが、コロナ禍でテレワーク中心生活に。2021年度より公立小松大学准教授。国際観光・地域創生コースに属し、地域に光をあてるアートの役割や、文化資源を核とした地域づくりのあり方をあらためて模索している。



熱海未来音楽祭(静岡)

過去と未来、夢と現が入り交じる異空間・熱海を舞台に、海岸や商店街、店舗、空き家等を使って、「即興」を中心とした音楽祭を開催。市内在住の巻上公一、町田康を中心に、世界的に活躍する音楽家・作家・美術家・ダンサーらが参加。コンサートだけでなくワークショップやパレード、海辺でのパフォーマンス等、その場でしか生まれない音楽を街の風景と共に作り上げる。海辺のオブジェ「未来の扉」やパフォーマンス「海辺の兎に角」などユニークなイベント多数。2019年より年1回開催。2022年10月第4回開催予定。熱海から発信する新しい価値の創造 Creativity / SFの想像力で未知なる音楽へと誘う Imaginative / 昭和レトロな街を未来の入口に変換 for the Future



ウイマム文化芸術プロジェクト(北海道)

白老町内外の人たちが、文化芸術を通じて協働・交流の場から地域資源や課題を見つめ直し、地域への愛着や誇りとともに新しい価値と観点を生み、主体的に活躍する地域社会の形成に寄与する活動。ミッションは大きく2つ。1つは地域に暮らす人々の営みや土地の記憶に光を当て、地域資源とその価値を再発見・再編集するための活動を推進。もう1つは新しい地域振興のモデルを生み出すこと。地域内外の人々との協働・交流の場を創出するプラットフォームとして、多様な人や団体と連携しながら、文化による地域づくりを模索、提案、体現する。「ウイマム」とはアイヌ語で「交易」の意味。



NPO法人 BEPPU PROJECT(大分)

2005年4月発足、2006年5月法人化。大分県別府市でアートやクリエイティブを軸に活動しているNPO法人。『in BEPPU』『国東半島芸術祭』などのアートプロジェクトの企画・運営、地元企業とクリエイターのマッチングを支援する『CREATIVE PLATFORM OITA』など、さまざまな事業を展開。アートやクリエイティブを地域の課題解決や新たな可能性が生まれる場づくりに活用し、まだ見ぬ価値を生み出すことを目指す。 廣川玉枝 in BEPPU photo by Takeshi Hirabayashi ©混浴温泉世界実行委員会

事例発表



しゃぎりフェスティバル 実行委員会(静岡)

しゃぎりフェスティバル実行委員会は、静岡県無形民俗文化財指定「三島囃子」のうち、江戸時代に発祥したとされる祭り囃子「しゃぎり」の持続発展に向けた活動を行っています。活動の中心となる「しゃぎりフェスティバル」は、祭り囃子である「しゃぎり」をあえて祭りから切り離すことで「しゃぎり」の特徴や魅力に焦点をあてることにしたイベントで様々な角度から「しゃぎり」を楽しむことができます。また、しゃぎりPR映像では伝統芸能らしからぬ視点で情報発信するとともに、コロナ禍でも伝統を受け継ぐためにマスクをしながら演奏できるよう皆で考えた「しゃぎりマスク」を衣装の一部として使い、ウィズコロナの時代に合わせた新しい祭り衣装のあり方も提言するなどの活動も行っています。



杉原信幸(長野)

旅することで出会う、地と、その地に暮らす人と文化との出会いの驚きから生まれる表現によって、人と自然の境界の場をひらく活動を行う。長野県生まれ。2010年より長野県大町市木崎湖畔を中心に「信濃の国 原始感覚美術祭」を毎夏主催。2016年NPO法人原始感覚舎設立。理事長。日本という島を旅巡り、出会ったおもしろい人を原始感覚美術祭に招くことで生まれる、祭りのうねりの熱が飛び火するように、2021年より旅の一座のように活動する。2019年ACC(アジア・カルチュラル・カウンシル)のフェロシップで8か月間の台湾原住民文化リサーチを行う。北アルプス国際芸術祭2020-2021参加 無人駅の芸術祭/大井川2022に、川根本町に伝わる鹿ん舞をモチーフに参加。



セルフ祭(大阪)

大阪の通天閣近くの新世界市場にて行われる、参加に「己を祭れ」とよびかけるお祭り。2012年にはじまり、半年で6回開催したがあまりに大変だったため、翌年からは年1回の開催になった。また、勝手にセルフ祭のメンバーが色んな場所でセルフ祭を開いているが、それらはカウントせず、新世界市場での開催は2021年度で17回目となった。「ふんどしカットの儀式」「人並べの儀式」「108儀式」「飛び入りステージ太平洋」「インド相撲」「UFOの儀式」などが毎年恒例で行われている。2020年はニコニコ動画で「オンラインセルフ祭」を開催。



武田力(東京)

幼稚園勤務を経て、演劇カンパニー・チェルフィッチュに俳優として参加。欧米を中心に活動するが、東日本大震災を機に演劇家に。「警察からの指導」「たこ焼き」「小学校教科書」など身近な物事を素材に、観客と現代を思索する作品を展開する。また、各地の過疎集落における民俗芸能の復活/継承を手掛けるとともに、「農」と「アート」の関係を実践を通じて研究する奥八女芸農プロジェクトに参画している。2016、17年度アーツコミッション・ヨコハマ「創造都市横浜における若手芸術家育成助成」、2019年度国際交流基金「アジア・フェロシップ」に選定。九州大学芸術工学部非常勤講師。

film by Samantha Lee ©CNN Philippines



田仲桂(福島)

福島県いわき市生まれ・在住。福島県文化振興審議会・いわき市文化財保護審議会・いわき市文化政策ビジョン策定検討委員会などの委員をつとめる。専門は歴史学(日本近世史)。TSUMUGUプロジェクトを主宰し、地域につたわる有形・無形の文化遺産の調査・保存・活用、継承のための支援、マツリや郷土芸能にスポットをあてて地域やアーティストと協働することで新たな価値観を生み出しプラットフォームを創るアートプロジェクトに取り組んでいる。三匹獅子舞・じゃんがら念仏踊り・出雲系神楽の担い手のほか、東日本大震災で被災した田植踊・宝財踊など福島県内の芸能の踊り手として活動している。



認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ(静岡)

2000年にボランティア団体として設立。2004年NPO法人化。2015年認定NPO法人化。2010年障害福祉施設として、生活介護、就労継続支援B型、放課後等デイサービスと、ヘルパー事業所ULTRAを行っている。2018年より街の文化創造発信拠点「たけし文化センター連尺町」を建設し、文化センターと障害福祉施設、シェアハウス、ゲストハウスを併設。2016年「表現未満、プロジェクト」でタイムトラベル100時間ツアー、雑多な音楽の祭典〜スタ☆タン!! など5つのプロジェクトを継続中。2021年は浜松市の中心市街地の20年間空き地と化した松葉跡地で「オン・ライン・クロスロード」を実行、街づくりへと拡大している。



浜松いわた信用金庫FUSE(静岡)

浜松いわた信用金庫は2020年6月にイノベーション拠点FUSE(フューズ)を開設しました。地域内外の中小企業やスタートアップ企業の経営者、大企業の新規事業開発担当者、フリーランス、大学関係者や学生など約150名が会員登録し、相互学習やコラボレーションがおこなわれています。単なる場所貸しではなく、FUSEでは浜松いわた信用金庫の職員がスタッフとして常駐し、施設の運営管理をしつつ、コラボレーションイベントを企画運営したり、会員同士、会員と有識者を引き合わせて課題解決の橋渡しをおこなうなど、越境の動線づくりを積極的におこなっています。今回の中小企業の廃材とまちづくりデザイナーとFUSEメンバーなど、スタートアップがFUSEコラボレーションの事業で新しいつながりを持ち、地域へ新しい価値をご紹介できればと思っています。